

# 安中市下水道事業経営戦略【概要版】

## 1. 改定の目的

下水道事業は、施設の老朽化などによる将来の施設の更新等への対応が課題となっており、事業を取巻く経営環境は厳しさを増しています。経営戦略は、将来にわたって安定的に下水道事業を継続していくための実情に対応した中長期的な視野に立った経営の指針として、平成30（2018）年度に策定しました。経営戦略は、社会情勢や経営環境の変化に合わせて3年から5年の間に見直す必要があるため、改定をすることといたしました。計画期間は、令和6（2024）年度から令和35（2053）年度までの30年間とします。

## 2. 公共下水道事業の現状

公共下水道の安中市全域に対する普及率は、令和4（2022）年度末で29.8%です。大規模な面整備は令和8（2026）年度の下水道概成に向けて工事を進めております。令和9（2027）年度以降については、維持管理を中心に行っていく予定です。下水道事業は、使用料収入のみでは下水道施設等を整備した際の借入金（企業債）の返済や維持管理費を賄えず、一般会計からの繰入金で賄っている状況です。経営状況の改善を図るため、経営戦略を基に、今後の事業計画や適切な使用料の算定に役立てていくことが必要であると考えております。

## 3. 将来の事業予測

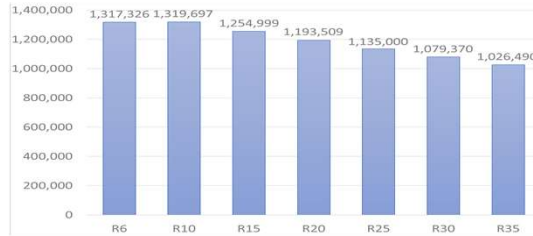
### (1) 処理区域内人口 (単位：人)

処理区域内人口は、令和8（2026）年度まで下水道の整備が行われるため、それまでは増加しますが、令和9（2027）年度以降については、人口減少に伴い徐々に減少すると見込んでいます。



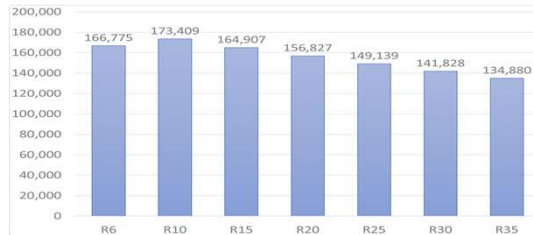
### (2) 有収水量 (単位：m)

有収水量は、下水道が概成する令和8（2026）年度までは上昇しますが、令和9（2027）年度以降については、処理区域内人口の減少に併せて、徐々に減少すると見込んでいます。



### (3) 使用料収入 (単位：千円)

使用料収入は、下水道が概成する令和8（2026）年度までは上昇しますが、令和9（2027）年度以降については、処理区域内人口及び有収水量の減少に併せて、徐々に減少すると見込んでいます。



## 4. 経営の基本方針

### 《流域関連公共下水道の推進》

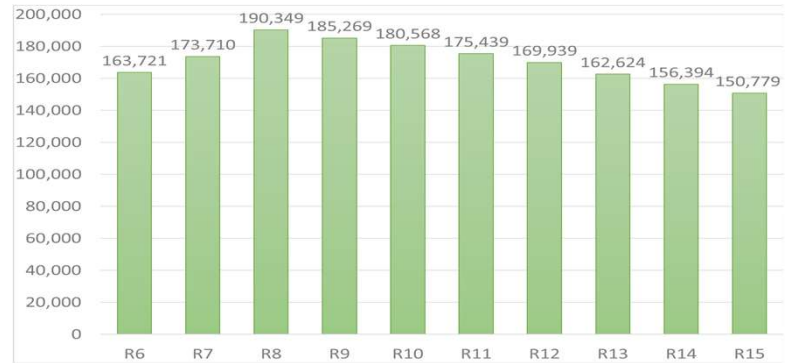
「安中市公共下水道事業計画」に基づき、令和8（2026）年度の下水道概成までは事業認可計画区域の下水道整備を計画的に推進します。令和9（2027）年度以降については、維持管理に努めます。

### 《下水道事業経営の健全化》

令和2（2020）年度より公営企業会計に移行しており、経営成績や財政状況を明確にし、引き続き経営の効率化、健全化を図ります。

## 5. 10年間の収支予測

※当年度純利益（単位：千円）



### 《収支予測について》

10年間の見通しでは、下水道の概成に伴い有収水量が増加するため使用料収入が増加し、当年度純利益は令和8（2026）年度には190,349千円まで増加しますが、令和9（2027）年度以降については、処理区域内人口の減少の影響により、有収水量が減少するとともに使用料収入が減少するため、当年度純利益の減少が見込まれます。

## 6. 経営戦略を踏まえた下水道事業の今後

水洗化率については、下水道の広報啓蒙活動や下水道接続促進補助金の活用などにより未接続家屋の接続促進を図り、令和10（2028）年度までに90%を達成し、その後も計画期間において90%以上を維持します。経常収支比率は、現在100%以上となっており、委託契約の見直し等今後更に徹底したコスト削減を図り、計画期間内において100%以上を維持します。経費回収率は、現在80%以上となっており、水洗化率や経常収支比率における取組みを踏まえ、計画期間内において80%以上を維持します。

## 7. 経営戦略の事後検証など

経営戦略については、継続的な進捗管理を行い、常に経営改善や計画の見直しに反映させていきます。進捗管理は、毎年度末において目標や達成状況について、投資・財政計画と実績の乖離や原因に対する分析を定期的・定量的に検証・評価し、実施手法の改善や計画の見直しを行い、実行するというPDCAサイクルの一連の流れにより行います。本市においては、今後3年から5年の間に経営戦略のローリングを行い、事業の進捗状況や経営状況の検証に活用していきます。